

マレーシア と中国の関係



土井裕之
ガバナンス3期生



マレーシア国内
における中国

天后宮



てんごうきゅう 【天后宮】

- マレーシアの首都クアラルンプールにある、東南アジア最大規模の中国寺院。1989年9月3日に建立された。
- 赤、白、黄金色の伽藍(がらん)がいらかを連ねる壮麗な寺院で、手摺、装飾が施された梁、ドーム型の天井などは、中国建築様式ならではの装飾がなされ、内部には壁画や書画がある。
- 中心市街地からは少し離れたクアン川南側の丘に建っていて、丘の上からは市街のペトロナスツインタワーをはじめ、高層ビル群などが見渡せる。寺院の東側には中国人墓地がある。

観音寺

この寺院はクアラルンプール全体で最も古い観音寺院の 1 つです。第一次世界大戦と第二次世界大戦の時代を経たこの寺院は、簡素なままです。中国の毎月 1 日と 15 日の朝、午前 10 時半頃から礼拝が行われ、誰でも参加できます。(同寺院webより)



中華系の学校



この辺りに
チャイナタウン
がある



チャイナタウン



グーグルマップより

■マレーシアの人口構造(2018)

- マレー系 65%…イスラム教徒
- 華人 24%…仏教
- インド系 8%…ヒンズー教

※使用言語・食生活・文化は3民族間で大きく異なる。

※昨今のマレーシアの選挙では「華人」の取込み策は重視。

※過去には「5月13日事件」も発生。

…1969年5月10日実施の総選挙に起因する5月13日発生の民族衝突事件。

死者196人、負傷者439人。マレー人は経済的に常に華人に対して劣位、という意識。

■MM2H (Malaysia My 2nd Home)

…マレーシア長期滞在ビザ

- ビザは5年更新、何回でも延長可能。
- コロナ禍、2020年7月でいったん申請停止。
- 2021年10月再開。条件は厳しくなった。
- マレーシアの「シンガポール化」…外国人選別
お金を落とす外国人に絞る方針。
- 中国国籍者のMM2Hビザ取得者は、全体の30%。
- 中国の富裕層が中国国外へ流出する流れ。

中国の世界戦略

■中国発「一带一路」 新経済戦略・安全保障上の脅威

- 「アジアーヨーロッパ」
の陸路・海路の巨大経済圏の構築構想。
- 2013年から11年目。習金平肝入り
- 152国中「32国際機関」署名
- 「中国一参加国」
 - ・貿易総額累計 19.1兆ドル(年平均6.4%のペースで増加)
 - ・相互投資額3800億ドル(うち中国からは 2400億ドル)
- 中国の国内投資による過剰生産能力を輸出し、
国内で行き詰まった経済成長を国外へ、
国内の生産余剰問題を解消、新**経済戦略**。
- 中国海軍の配備、政府のデジタル戦略など**安全保障上の脅威**も。



出所：中国中央電視台（CCTV）2015年3月8日

通商白書（2017年）より

■「一帯一路」六廊六路多国多港

「シルクロード経済ベルト」「21世紀海上シルクロード」

●「シルクロード経済ベルト」

- ① 中国西北、東北から中央アジア、ロシアを経てヨーロッパ、バルト海に至るルート
- ② 中国西北から中央アジア、西アジアを経て、ペルシア湾、地中海に至るルート
- ③ 中国西南からインドシナ半島を経て、インド洋に至るルート

●「21世紀海上シルクロード」

- ① 中国の沿海港から南シナ海を通り、マラッカ海峡を経て、インド洋に到達し、さらにヨーロッパへ伸びていくルート
- ② 中国の沿海港から南シナ海を通り、さらに太平洋へ伸びていくルート

●「六廊」= 六大国際経済協力回廊

「新ユーラシア・ランドブリッジ」「中国・モンゴル・ロシア」「中国・中央アジア・西アジア」

「中国・インドシナ半島」「中国・パキスタン」「バングラデシュ・中国・インド・ミャンマー」

●「六路」= 鉄道・道路・海運・航空・パイプライン・情報網

●「多国」= 一帯一路構想に協力する国々

●「多港」= 海上輸送の主要ルートの協力港

■中国と他の国々

- 「アジア～アフリカ～ラテンアメリカ」
＝比較的アメリカ資本が濃くない地域
…アメリカと対立を避ける国家戦略
- 発展途上国への「**債務の罠**」問題
- G7諸国で初となるイタリアの参加表明(のちに離脱)
…アメリカを中心とする西側諸国が警戒
- シーレーン戦略「真珠の首飾り」
…交易や安全保障上で重要な意味をもつ海上交通路
「真珠の首飾り」…インド＝人の顔、ネックレスの海上航路
- 海上航路上のインド洋の港に**中国海軍**の船艇を配備。
インド、アメリカの安全保障戦略への影響。
- 「デジタルシルクロード」
…2017年**国家情報法**。中国の組織・個人＝中国政府要請で情報提供

■新型コロナ外交

- 新型コロナ感染拡大
- 「一帯一路」に参加している国を中心に、
中国の製薬会社が現地で臨床試験を実施。
- 治験後は、その国々にワクチン供給。

■米中の緊張関係とASEAN

●現在の世界情勢

アメリカ一國優位の世界戦略に中国が挑戦している構図。



米中による競争の最前線となりつつある**ASEAN地域**

●東南アジア10カ国、米中対立の中、対応・姿勢は異なる。

▶【親中派】ラオス・カンボジア・ミャンマー

…一帯一路戦略で長年多額の支援を中国から受ける。

※2023年スイス、国連人権理事会「香港国家安全維持法導入」の賛否

…東南アジアではラオスやカンボジア、ミャンマーのみ賛成

※2021年12月「中国ラオス鉄道」運行開始

…首都ビエンチャン～中国との国境ボーテン～中国の雲南省・昆明

▶【親米派】ベトナム・フィリピン・インドネシア・マレーシア



外務省webより

マレーシア
と中国

■マラッカ海峡 「マラッカのジレンマ」

- 全長800キロ
世界の貿易品の約4分の1
世界の石油供給の3分の1
- 「インド洋」=「南シナ海」を結ぶ
「アフリカ、ヨーロッパ、中東」=「インド太平洋諸国・地域」と結ぶ
- 中国の貿易:90%は船輸送
- 石油・天然ガスなどの大半はマラッカ海峡を通過
- 2003年、胡錦濤(Hu Jintao)前中国共産党総書記
「マラッカのジレンマ」という概念を導入
マラッカ海峡への依存がいかに中国に深刻な脆弱性をもたらすか
- ここを封鎖されると中国は困る。



■マレーシアと中国の関係

- 中国を軽視していない。
- 米国に近づきすぎてもいけない。親米とも言い切れない。
- マレーシア国内政治の揺らぎの影響
 - ・ 2009ラザク首相 = 長期政権、親中国、汚職逮捕
 - ・ 2018マハティール首相復帰
 - 「中国の事業検証、中国を排除はしない」
 - ・ 2022アンワル首相 「マレーシアの立場は中立的」

米中覇権の時代
日本はどうか

これからの日本の立ち位置

- 世界は米国と中国の覇権争いの流れに。
- 東南アジアへの「上から目線」の指摘も。
- マハティール前首相「日本は米中と一線画した独自の外交政策を」
(2023.12.15 NHKニュース)



外務省webより